

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	屋外空気環境小委員会	主 査 名：持田 灯 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (空気環境運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：山中 俊夫
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な屋外空気環境の形成に重要となる課題について、現状の技術水準を明らかにするとともに、それらを適切に利用するための技術資料を論文や刊行物として整理する。</li> <li>・今期は、2007 年に刊行した「市街地風環境予測のための流体数値解析ガイドブック」の増補・改訂版の刊行に向けての活動を中心に進める。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：持田灯 (東北大)、幹事：富永禎秀 (新潟工科大) 委員：義江龍一郎 (東京工芸大)・飯塚悟 (名古屋大)・大岡龍三 (東大生研)・大黒雅之 (大成建設)・片岡浩人 (大林組)・白澤多一 (大妻女子大)・高木賢二 (鹿島建設)・土屋直也 (竹中工務店)・野津剛・佐々木澄 (清水建設)・今野雅 (OCAEL)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検証用ベンチマーク実施WG (主査：義江龍一郎)</li> </ul> これまでに実施した市街地の拡散問題を対象としたベンチマークテストに加え、より複雑な形状のベンチマークテストを実施する。	
2013 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む) WG を 5 回開催
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 22 回空気シンポジウム (2013 年 8 月 29 日 (木) 12 時 45 分～16 時 45 分 札幌コンベンションセンター) 「PM2.5 の飛来をはじめとする大気汚染問題の実態と予測・対策」を企画・準備 参加者数 120 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	本年度は、WG の活動が中心となっており、実験データ及び解析結果の収集に注力した。これについては予定通りであり、目標は達成している。今後はこれらの結果を分析・整理し、データベース及びガイドラインとしてまとめていきたい。
委員会活動の問題点 ・課題	「市街地風環境予測のための流体数値解析ガイドブック」の増補・改訂に関しては、具体的な作業に着手していないので、小委員会として活動を活性化したい。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 表中の「(書名)」等の赤字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2013 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検証用ベンチマーク実施WGにおいて、建物周辺の拡散問題に関するベンチマークテストを精力的に実施するとともに、その内容や結果について活発な意見交換を行った。ベンチマークテストは、単体建物周辺、非等温単体建物周辺、街区周辺、非等温街区周辺、実在市街地周辺の拡散場に関する風洞実験を対象としている。 ベンチマークテストの実施結果は、今年 6 月にドイツ・ハンブルグで開催される国際会議 CWE2014 に 4 編の Abstract として投稿し、accept された。</li> <li>・ 空気シンポジウム「PM2.5 の飛来をはじめとする大気汚染問題の実態と予測・対策」の企画・準備を担当し、約 120 名の参加を得て、好評であった。 2013 年 8 月 29 日 (木) 12 時 45 分～16 時 45 分 (札幌コンベンションセンター)</li> <li>・ 街区内の汚染質拡散に関する国際的なベンチマークテストとして知られる MUST ケースを対象として、委員が所属する複数の機関で計算を実施し、その成果をまとめた論文が、Journal of Asian Architecture of Building Engineering の 2013 年 5 月号に掲載された。 Tominaga, Y., Iizuka, S., Imano, M., Kataoka, H., Mochida, A., Nozu, T., Ono, Y., Shirasawa, T., Tsuchiya, N., Yoshie, R., 2013. Cross Comparisons of CFD Results of Wind and Dispersion Fields for MUST Experiment: Evaluation Exercises by AIJ, Journal of Asian Architecture and Building Engineering, vol. 12, no. 1, 117-124.</li> </ul>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。